

2024年

能登半島地震

緊急子ども支援

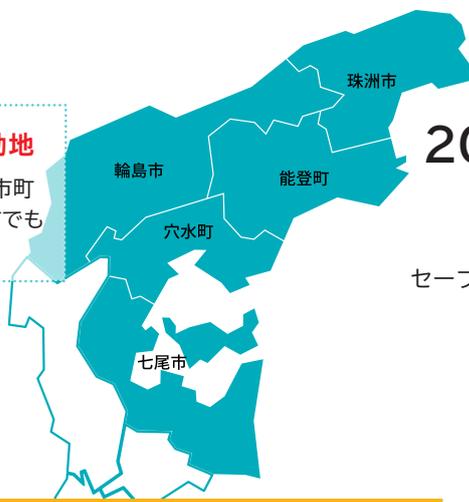
震災から120日間の活動報告



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

おもな活動地

能登半島の市町
の他、金沢市でも
活動



2024年1月1日に最大震度7を観測した 能登半島地震から120日

セーブ・ザ・チルドレンは、発災直後から石川県で被災した子どもたちやその家族、
子ども関連施設への緊急支援を続けています。

子ども支援のニーズを調査

現地に入り子ども
支援のニーズ調査
を開始
(七尾市・穴水町・
能登町・珠洲市・輪
島市)



1月1日
地震発生

情報発信

「子どものための心
理的応急処置」など
の情報を発信



1月4日
から

緊急子ども用キットなどの提供

避難所などで緊急
子ども用キット、ぬ
いぐるみ、衛生用品、
衣料品などを提供



1月7日
から

「こどもひろば」実施



子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こ
どもひろば」を被災地域の避難所などで実施

1月26日
から

「子どものためのPFA」研修

石川県内の子育て
支援の関係者に「子
どものための心理的
応急処置」の理解を
深める研修を実施



2月2日
から

備品支援

小中学校、学童保育、
幼稚園・保育所などに
暖房器具やプリン
ター、学校給食の再開
に必要な食器などの
備品支援を実施



2月6日
から

給食補食支援

学校給食の再開に伴
い、牛乳やチーズ、ヨー
グルト、ミックスナッツ
など小中学校や幼稚
園・保育所への補食支
援を実施しました。



3月18日
から

専門的人材サポート

放課後子ども教室、春休み一日保育で子どもを
支える専門的人材サポートを実施

3月31日
から

屋外での「子どもの遊び場」実施

子どもたちが屋外で
のびのびと遊ぶこと
ができる「子どもの
遊び場」を実施



このレポートでは、2024年1月1日の地震発生から4月30日までの活
動を報告しています。各活動の詳細や、現在の活動については、P5の
能登半島地震子ども支援の情報サイトをご覧ください。

初動支援

1月4日から被災地域に入り、 子どもたちに必要な支援の調査を開始

2月始めまでに石川県七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、金沢市を回り、緊急子ども用キットや衛生用品、おもちゃなどの物資配布やこどもひろばの実施、「子どものための心理的応急処置(PFA)」の講座などを行いました。

1. 子どものニーズ調査

セーブ・ザ・チルドレンは、避難所や行政、子ども支援施設などを回り、子どもたちの状況や必要な支援を聞き取りました。災害後、子どもに主眼を置いた支援は行きわたっていないこともある中、子どもたちの声をよく聴き、ニーズを知ることは重要です。断水が続く中で衛生用品や、避難所で遊べるおもちゃ、衣類などのニーズが高いことがわかりました。また、保護者には、子どもの心のケアに関する「子どものためのPFA」のパンフレットを手渡し、大きな災害の後には、子どもたちがいつもと違う反応を示すことがあること、そういった反応は自然なことだということ、伝えました。

2. 緊急子ども用キットなどの配布

避難所に避難している子どもたちを中心に、1月4日から緊急子ども用キット、ぬいぐるみなどを配布しました。緊急子ども用キットはマスクや消毒液などの衛生用品、おりがみなどのあそび道具、防犯用ホイッスル、情報提供用のパンフレットを持ち運びできるようにナップサックに詰めたセーブ・ザ・チルドレンのオリジナルのキットです。

3. こどもひろば

1月7日から災害時の遊び場支援で連携している一般社団法人プレーワーカーズとともに、緊急時に子どもたちが安心・安全に過ごすことができる空間「こどもひろば」を実施しました。段ボールを何個もつなげて遊んだり、絵を描いてカルタを作ったり、粘土で好きなものを作ったり、ボールを投げたり、ゲームや輪投げをしたりして、思い思いの時間を過ごしていました。4月末までに、七尾市、珠洲市、穴水町、輪島市の避難所などでこどもひろばを19回実施し、のべ200人の子どもたちが参加しました。

「こどもひろば」とは：災害などの緊急時に、避難先などで子どもたちが自分の思うままに遊んだり、友だちと過ごしたりする中で、自分らしさを取り戻せる場です。避難生活の中でさまざまな選択肢が限られてしまう子どもたちにとっては、「何をして遊ぶか」を主体的に決めることができたり、自分を受け入れてくれる相手がいることで、日常を取り戻す支援になります。同時に、こころの安定につながり、子どもが難しい状況や問題を自分の力で対処していくサポートへもつながります。



緊急子ども用キットの中身



子どもの声

「今まで避難所でみんなで遊ぶことがなかったので楽しかった」
「久しぶりに会えていない友だちにも会えてうれしかった」、「またみんなと遊びたい」

保護者の声

「子どももストレスがたまっていたようだったので、走り回ったりできて良かった」
「久しぶりに子どもたちが思いっきり遊ぶ機会ができて、うれしい」
「子どももずっと家にいるのも飽きていたようで、ここで来て友だちと遊べたのが良かった」

子どもの安心・安全を守る

保育所・幼稚園・学童保育などの支援

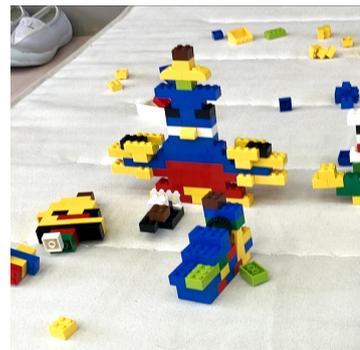
能登半島地震のような大きな災害のあとに、災害前から地域で子どもたちを支えていた施設や機能が再開することは、子どもたちの日常性の回復につながります。

備品支援・おやつ支援

被災した地域の保育所や放課後児童クラブ(学童保育)には、暖房器具、ヘルメットなどの防災用品、給食やおやつ用の食品などさまざまな物品の支援を続けています。

職員の声

「すぐに支援をいただいたことで、前向きに保育を再開しようと思えた」
「断水でやかんも洗えない中、お茶を作ることが衛生面で不安だったが、ペットボトルのお茶の支援で、給食の調理員たちはとても助かった」



専門的人材サポート

子どもの放課後や長期休暇を支える支援員も被災し、一部の放課後子ども教室、長期休暇中の一日保育が難しい状況にあった石川県珠洲市で、以前からつながりのある団体と連携して、放課後子ども教室、春休み一日保育で子どもを支える専門的人材サポートを実施しました。

■「放課後子ども教室」の再開支援

2018年西日本豪雨の支援活動で連携したNPO法人くらしき放課後児童クラブ支援センターと連携し、3月18日から22日までの祝日を除く4日間、倉敷市から学童保育支援員1人が現地へ赴き、再開を支援しました。

■小学生を対象とした1日保育の支援

3月23日から4月4日までの春休み期間中、一般財団法人児童健全育成推進財団と連携し、珠洲市の小学生を対象とした一日保育への専門的人材のサポートを行いました。

屋外での「子どもの遊び場」実施

被災した地域では、さまざまな理由で子どもたちが外で遊べる場所や機会が少なくなっています。子どもたちが思い切り外で遊べる機会を作るため、災害時の遊び場支援で連携している一般社団法人プレーワーカーズや地域で活動に協力してくれる関係者とともに関島市、能登町の公園で「子どもの遊び場」を実施しました。参加した子どもたちは、木にロープをつるして作ったブランコで遊んだり、松ぼっくり拾いをしたり、小さなバッタを捕まえたり、虫の卵を発見したり、公園内の自然をいっぱい楽しんでいました。4月末まで5回開催し、のべ164人の子どもたちが参加しました。

保護者の声

「仮設住宅の建設などで子どもの遊び場が限られているので、本当にありがたい」、「普段はこうしたら良いよと、道筋や答えを子どもに教えがちだった。子どもなりに工夫しながらどうやったらブランコを作れるか試行錯誤する姿をみて、自分も子ども時代には無茶なやり方でもこうやって遊んだことが楽しかったことを思い出した」

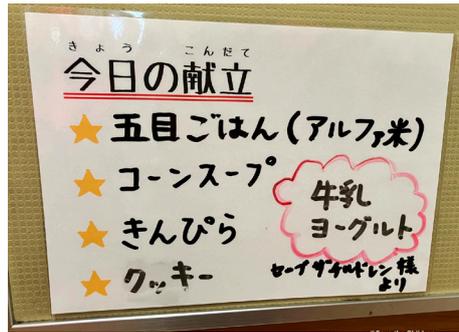


子どもの学びの環境整備のために

給食補食支援

被災した地域では、学校再開後、徐々に簡易給食の提供なども始まりました。しかし、断水が続いていることに加えて、給食用の食材を準備することや調理場が被災し被災前と同じようなメニューを作ることが難しい地域もありました。栄養バランスのとれた食事を子どもたちに提供したいという声を受け、セーブ・ザ・チルドレンは各地域のニーズを確認しながら、牛乳やチーズ、ヨーグルト、ミックスナッツなど小中学校や幼稚園・保育所への補食支援を実施しました。

給食補食支援実施地域：穴水町、能登町、珠洲市、七尾市



備品支援

震災直後、被災を免れた多くの学校が避難所として利用されました。学びの場所を確保したいが暖房器具が不十分などといった教員や行政の声がありました。また被害の大きかった地域では、学校が被災し、他の学校の校舎に間借りをして学校を再開することも多く、授業の運営に必要なプリンターなどの備品が不足している、という声も聴きました。

セーブ・ザ・チルドレンは学校再開に必要な暖房器具やプリンター、学校給食の再開に必要な冷蔵庫などの備品支援を実施しました。

学校備品支援実施地域：七尾市、輪島市、能登町



誰もができる、緊急下の子どもへの心のケア 子どものための心理的応急処置(PFA)

セーブ・ザ・チルドレンは、1月から子どものためのPFAの情報提供とともに、石川県内の子ども支援関係者などに対し、「子どものためのPFA」の理解を深める研修を実施しています。

「子どものためのPFA」とは、地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちは、普段とは異なる反応や行動を示すことがあります。反応は子どもによってさまざまです。「子どものためのPFA」は、そのような子どもたちの心を傷つけずに、子どもたちが少しずつ、自分たちのペースで落ち着きを戻せるように対応するための方法で、心理や精神保健の専門家でなくても、誰もが使える、子どものための応急手当です。



実施回数：2回
受益者数：312人



子どもたちや保護者、地域の声に 耳を傾けながら、日常を取り戻すことが できるよう活動を展開していきます。

セーブ・ザ・チルドレンは能登半島地震の影響を受けた子どもたちや家族、子どもにかかわる関係者の声を聴きながら、子どもの権利を守る視点から支援計画を策定して活動を続けています

今後の活動予定について (2024年4月末時点)

- 子ども関連施設の環境整備の支援
 - 給付金
 - 緊急下の子どものこころのケア
- 学校、保育所・幼稚園、放課後児童クラブ(学童保育)や放課後子ども教室など、子どもたちが一日を過ごす子ども関連施設の復旧
- 地震の影響を受けた子どもの、まなびを支える返還不要の給付金事業
- 子どもの遊びや体験活動の支援
 - 子どもの声を基にした活動
 - 情報発信

最新の情報については、メルマガ・ウェブサイト・SNSなどで発信していきます。

能登半島地震
子ども支援の
情報ページ



能登半島地震子ども支援にご協力ください

クレジットカードからの寄付



パソコン・
スマートフォンから
ご寄付いただけます。



能登半島地震 緊急子ども支援 検索

- 企業としてのご寄付のご要望・ご相談については、法人連携チームまでお問い合わせ下さい。
japan.corporatepartner@savethechildren.org
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンは、
子どもの権利のパイオニアとして
100年以上の歴史を持つ、
子ども支援専門の国際組織です。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、1919年から活動しています。



創設者 エグランタイン・シェブ



Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL: 03-6859-0070(平日9:30~18:00)
www.savechildren.or.jp

2024年5月

2024年 能登半島地震 緊急子ども支援 震災から120日間の活動報告 5